

# 黒澤明の映画 喧々囂々

岩本 憲児著

「羅生門」「天国と地獄」「生きる」…。 「世界のクロサワ」による30本もの映画は公開時、どのような批評を受けていたのかを検証した。

1954年公開の「七人の侍」は米国の西部劇と比べられただけだけでなく、戦没犠牲者への哀悼や再軍備問題を重ね合わせて論

じられた。誰もが楽しい娯楽時代劇と見たはずの「用心棒」に「不気味なもの」を感じ取った詩人がいた。

骨太な語り口や鮮烈な造形美、ヒューマニズム…。さまざまなたくまな特質を併せ持つ作品世界をつぶさに渉猟した。

(論創社・2200円)